

沖縄の伝統的な集落景観に存する現代建築としての民家についての考察

日大生産工 (学部) ○杉山 未沙
日大生産工 (研究員) 片岡 菜苗子 日大生産工 篠崎 健一

1 研究の背景と目的

沖縄本島北方の伊是名島にある伊是名集落は、伝統的な集落の空間構成と民家の形式が今なお残り、古くからの集落景観と人々の生活が現在に残る集落である。この集落の中心に一軒だけ現代的な鉄筋コンクリート造の民家があるが、この民家は違和感なく伝統的な集落空間に溶け込んでいるようにうかがえる。本稿では、如何にしてこの民家がこの場所に存在しうるか、集落の人びとの生活の中にあるかを考察する。

2 研究の方法

本研究は、次の4つの視点を軸に考察を進める。それらは、

- 1) N家住宅設計者の意識
- 2) N家住宅住み手の意識
- 3) 図面や写真などからだれもがわかることがら (観察した事実)
- 4) 伝統的な民家と比較しての気づき (考察)

これらの1) 2) はそれぞれの対象者に話を聞くことにより、語りを集めた。3) 4) は、筆者が3) は描き起こした図面や写真を参照して観察することから誰もがそうだと理解することがらを文章で記し、4) は、文献や既往研究¹⁾²⁾、研究会の調査研究の蓄積^{*1)}、実際の伊是名集落での空間体験などから得ることのできた気づきである。

1) から4) の資料の収集は、次のようにおこなった。

- 1) 設計者であるMさんを那覇の事務所に訪ね、約2時間にわたり話を伺った。(2015年3月17日)
- 2) 住み手であるNさんとその家族に対して、実測調査時(2014年12月26日)にN家において、及び集落の祭りの折(2016年8月1日)に集落の公民館において、話を伺った。
- 3) 図面は、Nさんから提供された設計図書をもとに、実測調査において採取した写真やビデオをもとに、筆者らが作成した。
- 4) は上記のとおりである。

1) の設計者の意識と2) の住み手の意識は、採取した音声やビデオデータを文字に起こし、上記3) で描いた図面(平面図・断面図)の該当箇所にも文章としてプロットした。これが図2 abである。

3) の観察からわかったことがらは解釈を経ないようにして、図3 abに筆者らの気づきとして、文章で記した。

ここで、図2と図3を比較し、4) の伝統的な民家のあり方と関連する気づきを斟酌することで、N家の集落の中の民家としてのあり方が見えてくるのではないかと考える。さらに筆者がN家を感じた、現代的なのに違和感がないという気づきの根源に迫れるのではないかと考えた。

3 伊是名の民家の概要

伊是名の民家は、敷地を珊瑚やコンクリートブロックを積んだ壁(敷地囲い)、フクギなどの防風林が覆う。主屋のほか、畜舎、井戸があり、建物の内部だけでなく敷地一帯が生活の場として使用されている。家のつくりは、木造の柱と梁による開放的であり、雨端とよばれる軒下空間が日差しや雨を遮りながら、通風を確保する。母屋は、東から一番座、二番座、三番座と呼ばれ、北側には裏座がある。一番座には、床間、二番座には仏壇が設えられ、接客や家族の団らん、先祖を祀るなど表の空間とされている。それに対して、裏座はジュールやクチャと呼ばれ、寝室、産室として使われ、私的な空間となっている。

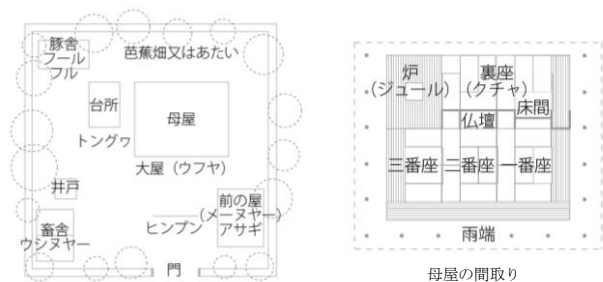


図1 沖縄の伝統的な民家の概要³⁾

4 N家住宅の空間認識

4. 1 広間

N家には、一番座、二番座といった平面構成はみられず、裏座もない。設計者は、南を向いた最も主要な室を広間と呼んでいる。設計者からも伝統的な民家のプランは木造で成立する家であり、ほとんど無視を

Consideration about the house as the modern architecture to consist in traditional village scenery of OKINAWA

Misa SUGIYAMA, Nanako KATAOKA, Kenichi SHINOZAKI

しているという語りを得た。(図3a[P-2])しかし、広間に設えられた押入れをみると、幅約一間半で高さは900あり、伝統的な民家の仏壇とほぼ同じ寸法である。これは、いずれ仏壇に改修するためである。(図3b[S-3])この押入れがあることで、広間の空間は二番座の空間と同質であると感じた。

ほかにも、設計者の語りで広間から連続する縁側で訪問者を迎える記述がある。(図2a[P-6])広間が二番座の意識を持っていると感じられた。(図2a[39～40],[42],[44], 図3a[P-6])

一方で二番座と異なる事実も確認することができる。(図3b[41],[43], 図3a[P-6])さらに二番座の意識がありながら二番座と言及せず広間と記述している。これは一番座、二番座の型にとらわれず、あくまで広間という空間であるという設計者の意図であると思われる。

4. 2 畜舎(ウシヌヤー)

伊是名集落でも現在は移動手段として自動車が利用されている。N家においても、自動車が生活の中で使われている。(図3a[P-3])伊是名集落の他の民家では自動車を駐車するため、ヒンプンを取り払っている。[2]

一方N家では北の道から自動車を入れ、母屋と畜舎の間の空間に駐車スペースを設けている。(図3a [P-3])これにより道路から敷地内に出入りできる場所は、2箇所となる。

畜舎(ウシヌヤー)はかつて家畜を飼う際に牛の家として使われた建物である。N家では母屋の西の建物の南側をウシヌヤーと図面に記している。(図3a) 畜舎にはウシヌヤーと呼ばれる倉庫や、酒を保存しておくこし蔵がある。(図3a[P-8], [P-9])さらに畜舎と母屋の間の空間にはお酒を置いていたり、流しにまな板が置いてあったり、釣りの道具を置いていたり、子供の遊び道具があるとことからさまざまな行動がそこで行われていることがわかる。(図3a[P-3])

沖縄の伝統的民家では敷地内に建物が分散している。母屋と畜舎の間には、井戸や台所があることで洗い物や洗濯などの行為が行われる。[4] N家では北の道から出入りさせることにより、母屋と畜舎の間の空間が生活の一部となっているのではないかと考える。

4. 3 アプローチ

アプローチは実施図面段階で東からであった。(図3a[P-7], [P-10], [P-11],) 東からのアプローチにすることで庭をプライベートな空間にしようという設計者の意図であったが住み手Nさんの希望で沖縄の伝統的民家の特徴である南からのアプローチという方法を取った。N家の敷地の北と東には多くのフクギが残っている。(図3b[S-7], [S-9], 図2a[11], 図2b[6],)伊是名集落ではフクギがあまり残っておらず、(図3 b [S-6])敷地囲いの石垣も壊れていたり、ブロックに置き換えていたりしているところがある。(図3b[S-6])フクギや石垣を残すためにN家では、敷地南側の石垣の一部が崩れ

ていた部分を出入りに使うことで結果的にとフクギも切らず、伝統的なアプローチ方法(図3b[S-5], [S-9])を採用できたと考える。(図3a[P-10], 図3b[S-5])

また、敷地北側から自動車の出入りをさせる(図3a[P-1])ことで南側のアプローチにヒンプンを残すことができている。

4. 3 屋根

伝統的民家は木造で屋根は寄棟で赤瓦が用いられている。N家は鉄筋コンクリート造であり屋根は鉄筋コンクリートに沖縄本島赤瓦を用いている。(図3b[20])木造の場合沖縄の強い風に耐えるため瓦を使用するが、N家の場合鉄筋コンクリートであるため瓦必要ではない。

伊是名集落を散策すると南側の道から民家の全体が見え、北側の道からはほとんど屋根しか見ることはできない。これより集落の景観を形成するものとして民家の南側は重要な役割を持っていると考えられる。これを踏まえると鉄筋コンクリートの屋根に赤瓦を使用したのは集落景観の意識があると考えられる。さらに屋根勾配もまた鉄筋コンクリート造の場合は必ずしも必要でない。N家では片流れを使うことで南は屋根を見せ、北は平屋根で高さを抑えていることがわかる。

(図3b[13])これもまた集落景観の意識がうかがえる。住み手であるNさんにも部落の景観の意識が確認できる。(図3 b [S-8])

5 まとめ

伊是名集落にある現代建築である一つの民家をさまざまな視点から調査し、沖縄の伝統的民家との関係を示した。

注釈

*1) 本研究は、東京工業大学藤井晴行研究室・日本大学篠崎健一研究室共同主催の空間図式研究会による伊是名集落における調査・研究をもとにした探求であり、それらに新たに収集した資料を加え、整理、分析、考察した。

参考文献

- 1) 大久保崇・藤井晴行・篠崎健一、沖縄伊是名集落民家の空間構成への住意識の現れ—空間図式と建築の実体との結びつきに関する研究その1—,日本建築学会大会学術講演梗概集, (2015)
- 2) 篠崎健一・大久保崇・今村昂広・片岡菜苗子・藤井晴行、沖縄伊是名集落民家の空間構成への住意識の現れ—空間図式と建築の実体との結びつきに関する研究その2—,日本建築学会大会学術講演梗概集, (2015)
- 3) 津波高志 他、伊是名村史 下巻(島の民俗と生活), 伊是名村,(1989)

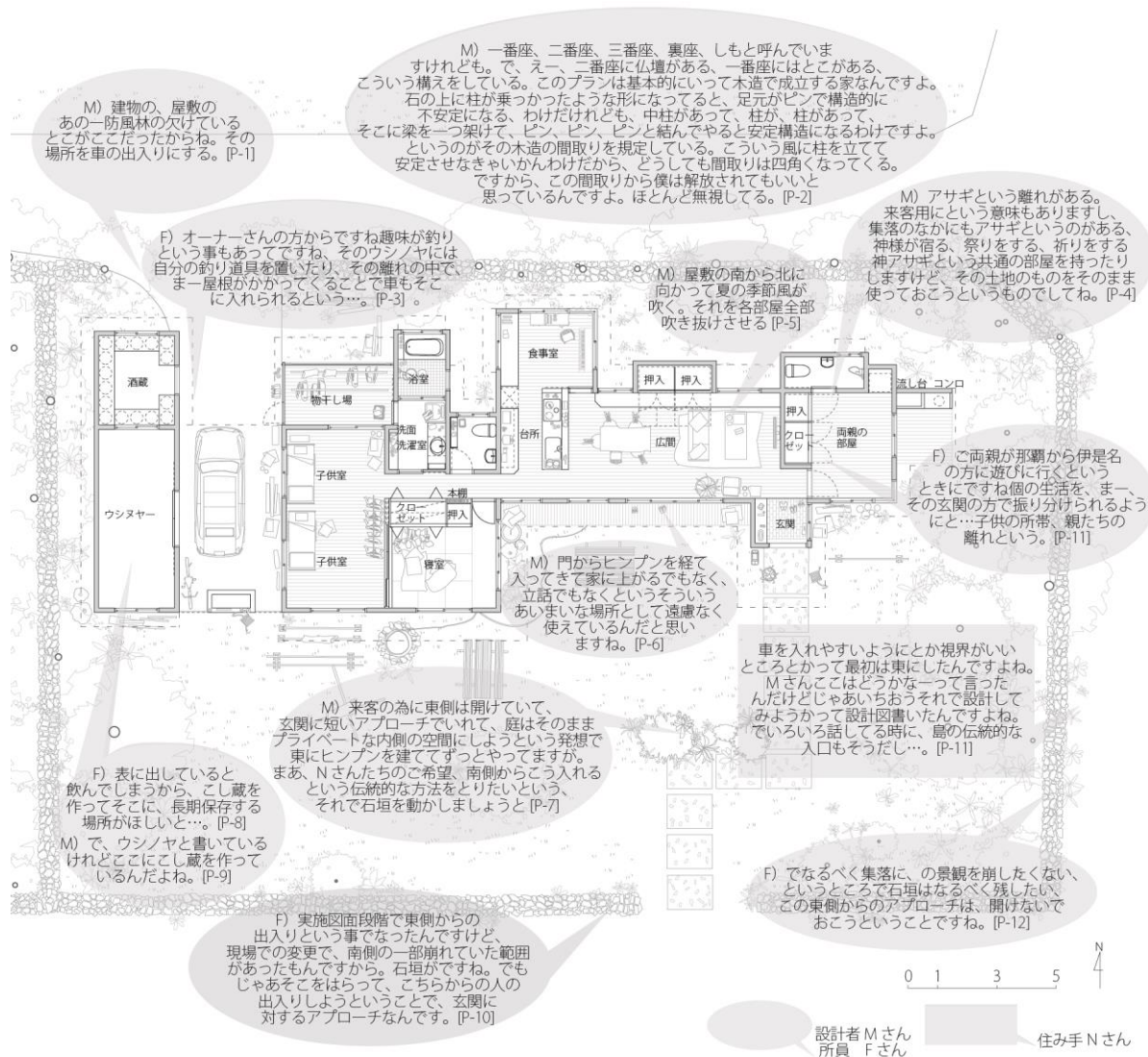


図 3a N 家住宅の設計者と住み手の意識（平面図へのプロット）

広間の南側に縁側がある [16]

母屋は敷地の中心より北に位置している [1]
母屋は大きく分けて 3 つのブロックに分けられる [2]
1. 両親の部屋、デッキ、トイレ
2. 広間、玄関、台所、食事室
3. 子供室、寝室、トイレ、洗面、浴室
多くの四角形が組み合わさったプラン [3]
母屋と離れの 2 棟（母屋：118.03 m²、離れ：25.11 m²） [4]
豚舎（フール）が無い [5]
敷地の北側に芭蕉畑（アタイ）がない [6]
裏座が無い [7]
母屋の南側と北側の外壁は南や北に出張ったりしている [8]
部屋が壁で仕切られている [9]
1 つの部屋には必ず 2 方向に開口がある [10]
敷地がフクギ（防風林）で覆われる [11]
フクギ以外の植物も見られる [12]
敷地が珊瑚でできた石垣で囲われている [13]
石垣の北側の一部が欠けている [14]
南が主な出入りの場所である [15]
北の道からも出入りできる（主に自動車） [16]
ヒンブンの東側より西側の方が広い [18]
ヒンブンは植物でつくられている [19]
南側の道路から玄関までコンクリート製の石畳が続いている [20]
南の庭の中央に木が植えられている [21]

南に広い庭がある [22]
井戸が敷地の西側に位置している [23]
敷地一帯に芝が植えられている [24]
物干し場が母屋の北西に位置している [25]
南の庭にベンチや机が置いている [26]
南側の庭に砂場や鉄棒のようなもの、おもちゃが置いている [27]
東側にデッキがある [28]
縁側に靴が置いている [29]
縁側は広間と台所の南面にのみある [30]
縁側に柱はない [31]
母屋、離れは道路に対して平行、垂直に計画されている [32]
母屋は東西に長く、ウシヌヤは南北に長い [33]
母屋の西側、畜舎の周りには空き瓶、自転車、釣り道具、洗濯物など多くのものが置いている [34]
母屋と畜舎の間の地面はコンクリートである [35]
母屋と畜舎の間に流し台がある [36]
南端が建物の南、北（一部）、東、西を取り囲んでいる（南端） [37]
広間という広い空間がある（27.50 m²、全体の 23%） [38]
広間の南側に小さな庭の広がりがある [39]
広間の南の庭にヒンブンのある [40]
広間にある押入は母屋にくっつたようになっている [41]
広間の北側に押入がある [42]
広間は南北の庭に面している [43]

広間に南北の開口がある [44]
畜舎と母屋の間に車を入れられる [45]
畜舎と母屋の間は屋根が架かっている [46]
畜舎にはウシヌヤと酒蔵がある [47]
畜舎は敷地の西に位置している [48]
玄関が広間に付属している [49]
ウシヌヤは倉庫として使われている [50]
両親の部屋は母屋と同じ棟にある [51]
両親の部屋は母屋の一番東側に位置している [52]
両親の部屋はヒンブンの東側に位置している [53]
東側にトイレ、シャワー、コンロ、流しなどの水回りがある [54]
浴室、トイレ、洗面洗濯室、台所は母屋に含まれる [55]
浴室、トイレ、洗面洗濯室、台所は北西に位置している [56]
台所（トングワ）が母屋の広間の西側にいる [57]
玄関がヒンブンより東側にいる [58]
子供室と寝室の間のみ建具で部屋を仕切られている [59]
子供室と寝室の間の建具を開けて使用している [60]
子供室には二段ベッドが置いている [61]
食事室にはピアノや机、子供のランドセルが置いている [62]
食事室は南側に面していない [63]
寝室、子供室は母屋の西側に位置している [64]
開口部はアルミサッシになっている [65]

図 2a N 家住宅の伝統的沖縄民家の気づき（平面図より）

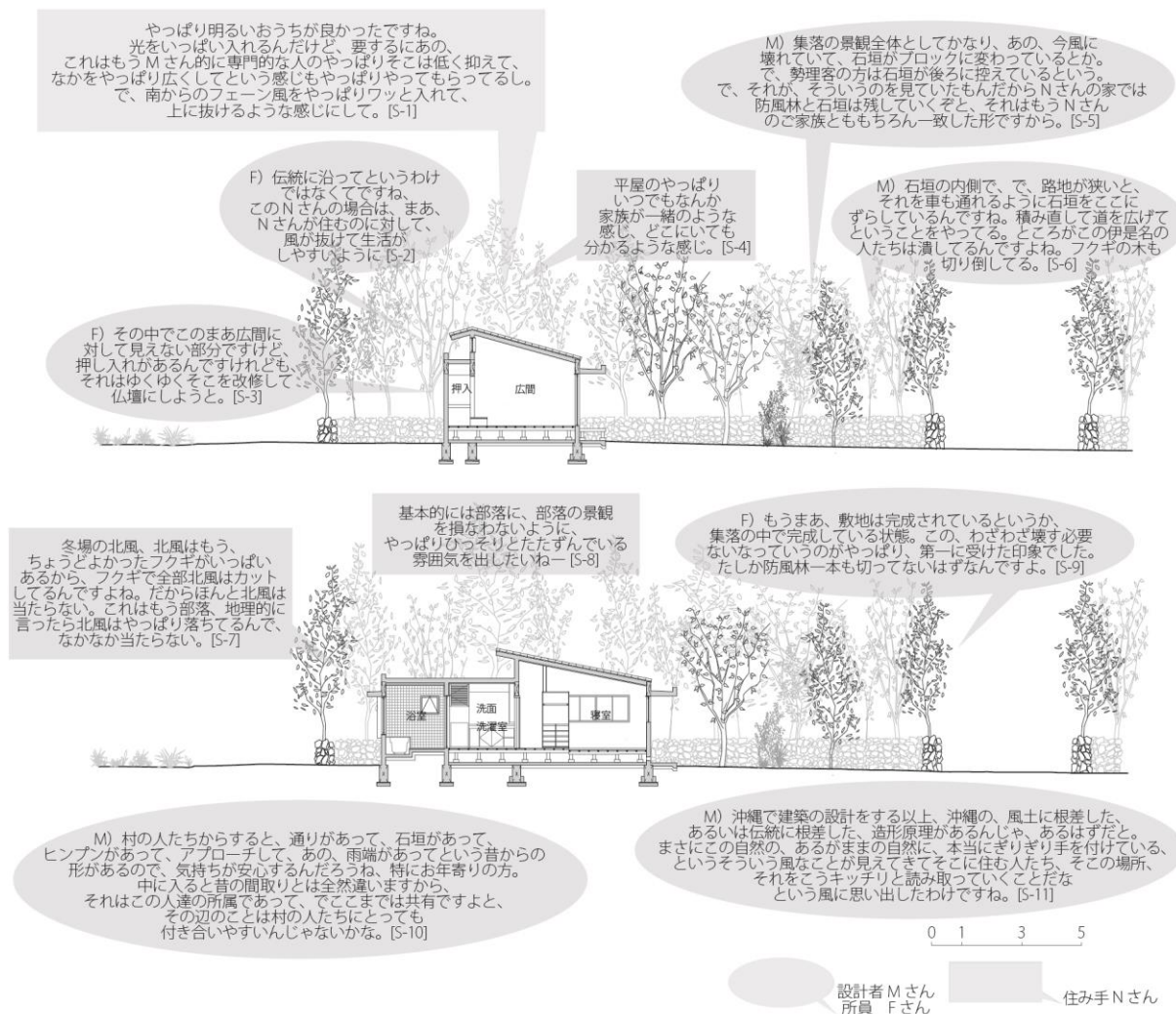


図 3b N 家住宅の設計者と住み手の意識（断面へのプロット）

- 平屋である [1]
GL から FL までの高さ 600 [2]
石垣に囲まれている [3]
母屋に 2 種類の屋根がある [4]
母屋の 1 つの屋根は勾配が 5 : 1 [5]
家のまわりをフクギで囲われている [6]
躯体は RC 造 [7]
建物の高さはフクギより低い（建物最高高さ 3981） [8]
地面から雨樋までが低く抑えられている（高さ 2400） [9]
屋根（切妻）、片流れ、平屋根の 3 種類ある [10]
北側の屋根は平屋根 [11]
- 屋根の形状より 3 つのブロックに分けられる [12]
1、ウシヌヤ
2、母屋の西
3、母屋の東
- 屋根に赤瓦を使っている [13]
母屋の屋根は南に傾斜している [14]
母屋の屋根は南から見ると 2 種類の勾配屋根 [15]
2 種類の屋根は勾配が異なる [16]
縁側に屋根がかかっている [17]
母屋と畜舎を屋根でつないでいる [18]
畜舎とデッキはコンクリートの平屋根 [19]
雨が南と北に流れるようになっている [20]
南側の開口が低く抑えられている（開口高さ 1800） [21]
北側の壁、天井高が低く抑えられている（天井高 2200） [22]
天井に勾配がついている [23]
北側の天井が高い（最高高さ 3127） [24]
- 雨樋がある [25]
雨樋は屋根の延長線上に延びている [26]
雨樋は縁側より南に延びていない [27]
雨樋は南側の壁を囲っている [28]
北側の開口部には庇がついている [29]
南側の壁の高さはそろっている [30]
広間の南面の開口のみ人が通ることが出来る [31]
広間の南面の開口が多い（母屋の南側の開口に対する広間の開口の割合 61.5%） [32]
広間から、縁側、南の庭に出ることができる [33]
広間の玄関以外の壁には人が通れる開口はない [34]
開口はアルミサッシでガラスや網戸がついている [35]
雨戸、戸袋が無い [36]
玄関は木でできた開き戸 [37]
北の壁の上部には開口がある [38]

図 2b N 家住宅の伝統的民家との気づき（断面図より）